

令和元年度秋田県男女の意識と生活実態調査結果（概要）

1 調査の目的

本県の男女共同参画社会に関する県民の意識と生活実態を把握し、今後の男女共同参画に係る施策立案等の基礎資料とする。

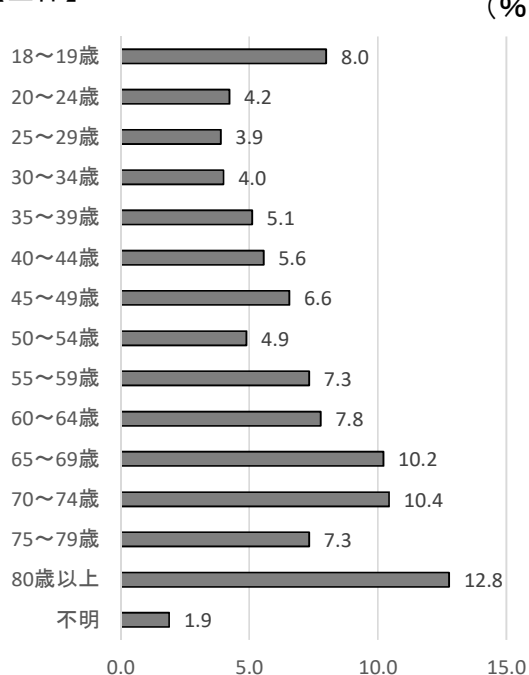
2 調査の概要

- (1) 調査対象 県内在住の満18歳以上の男女2,200人
- (2) 有効回答数 900件（女性494件、男性387件、その他1件、不明18件）
回答率40.9%
- (3) 調査方法 調査票往復郵送によるアンケート方式
- (4) 調査内容 男女共同参画に関する意識や取組、女性の活躍推進、職場環境、地域活動、DV（ドメスティック・バイオレンス）等
- (5) 調査期間 令和2年1月中旬～2月上旬

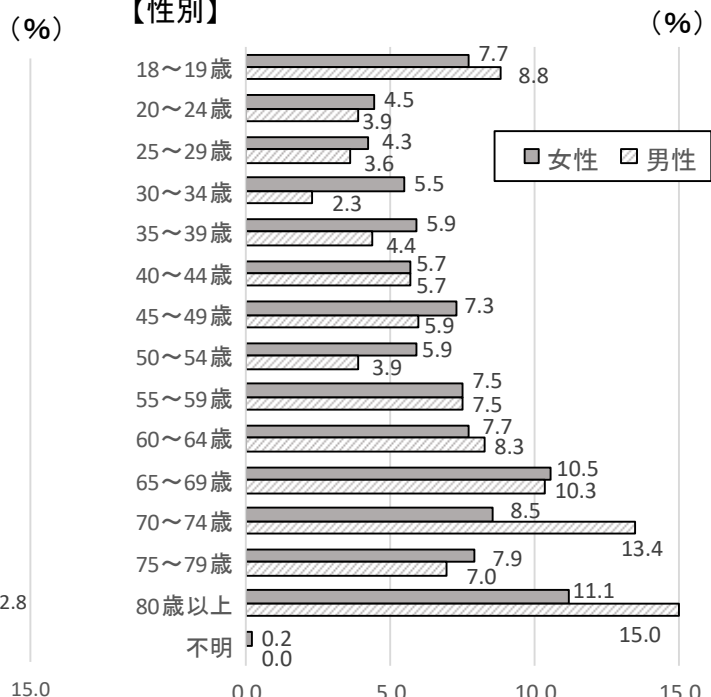
3 年齢別回答割合

	全体		女性		男性	
	実数(人)	構成比(%)	実数(人)	構成比(%)	実数(人)	構成比(%)
18～19歳	72	8.0	38	7.7	34	8.8
20～24歳	38	4.2	22	4.5	15	3.9
25～29歳	35	3.9	21	4.3	14	3.6
30～34歳	36	4.0	27	5.5	9	2.3
35～39歳	46	5.1	29	5.9	17	4.4
40～44歳	50	5.6	28	5.7	22	5.7
45～49歳	59	6.6	36	7.3	23	5.9
50～54歳	44	4.9	29	5.9	15	3.9
55～59歳	66	7.3	37	7.5	29	7.5
60～64歳	70	7.8	38	7.7	32	8.3
65～69歳	92	10.2	52	10.5	40	10.3
70～74歳	94	10.4	42	8.5	52	13.4
75～79歳	66	7.3	39	7.9	27	7.0
80歳以上	115	12.8	55	11.1	58	15.0
不明	17	1.9	1	0.2	0	0.0
合計	900	100.0	494	100.0	387	100.0

【全体】



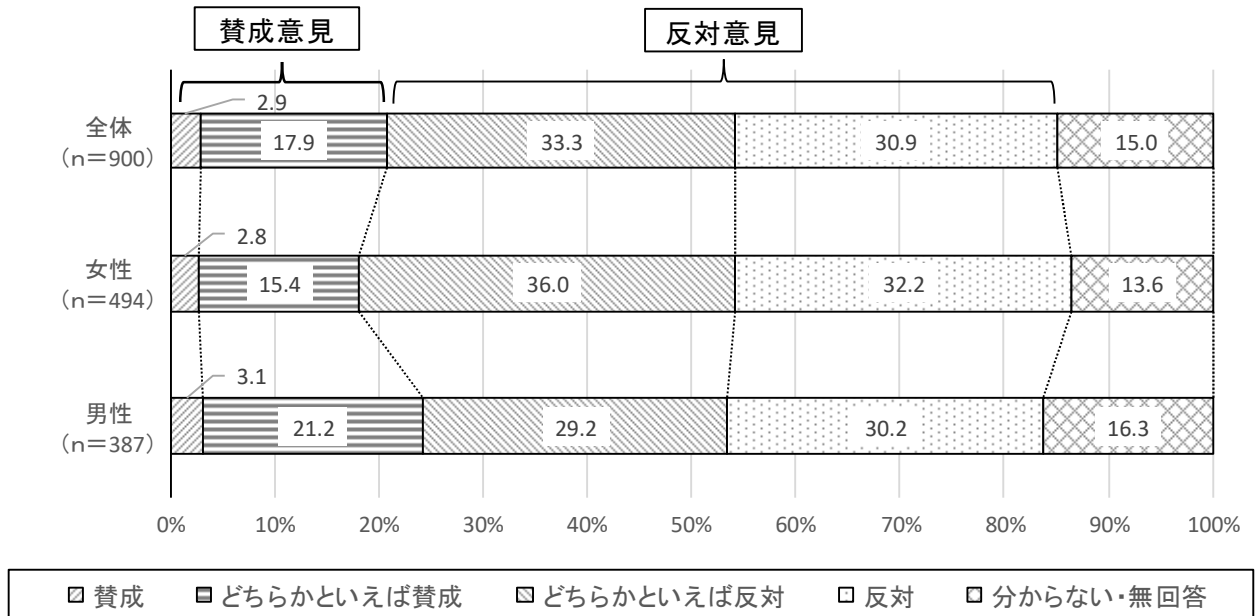
【性別】



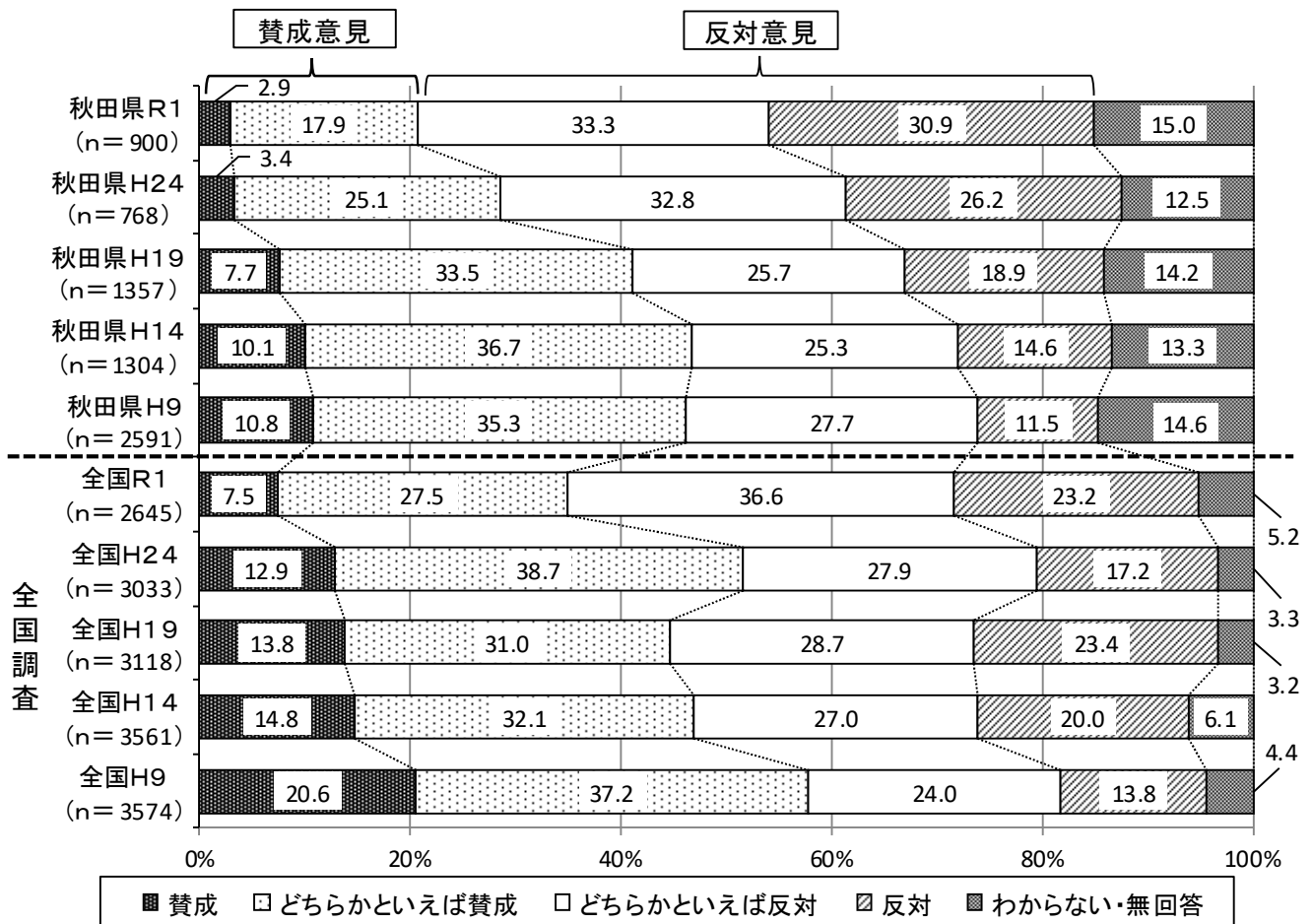
4 主な調査結果

(1) 性別役割分担意識（報告書 15 ページ：問2）

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、全体では、6割以上の人が反対意見であり、男女別における反対意見の割合は、女性の方が男性より高くなっている。



[参考] 過年度調査等の比較

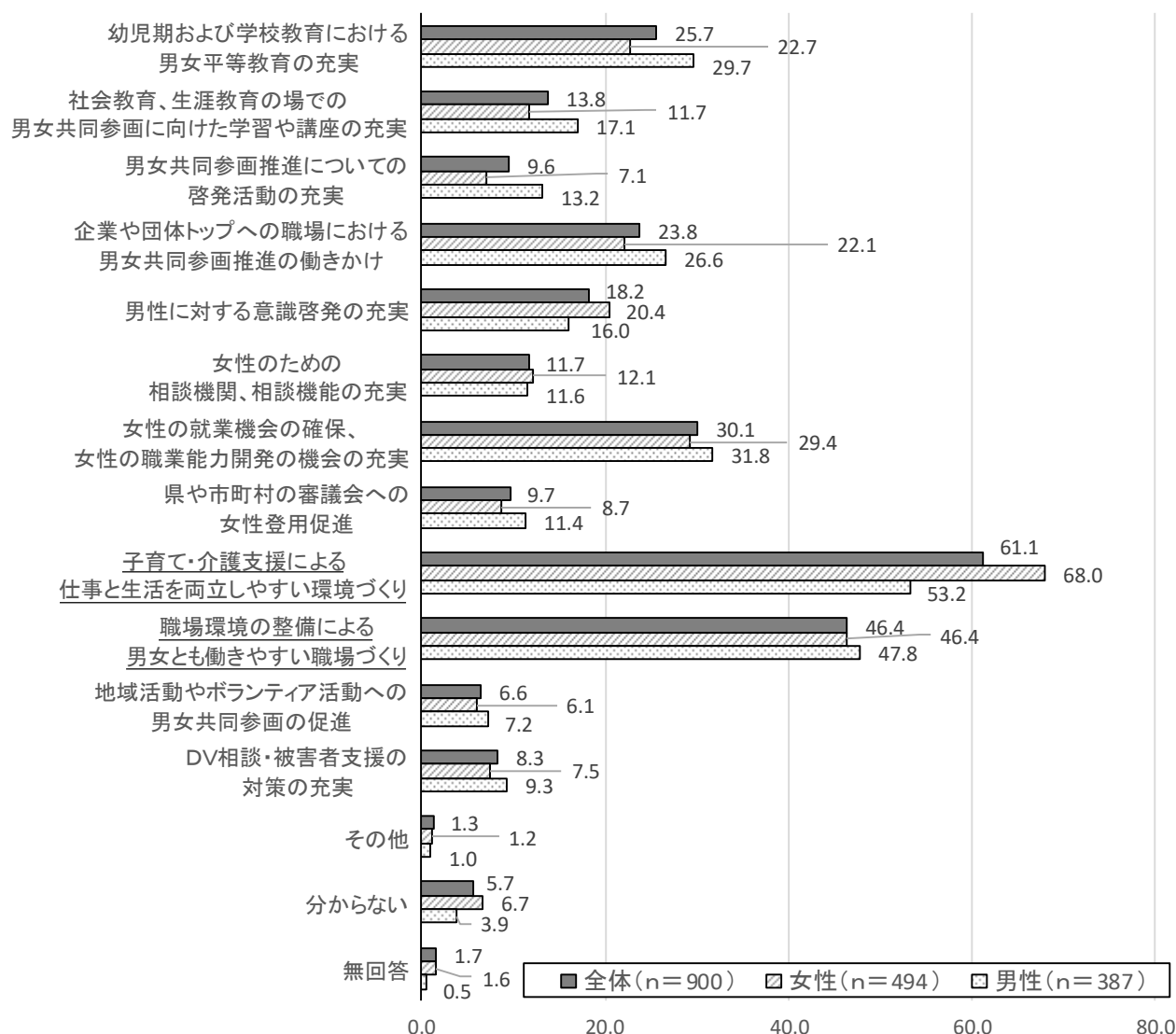


※全国調査：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」

(2) 男女共同参画の推進に向け力を入れたらよいと思う施策（報告書 37 ページ：問6）

「子育て・介護支援による仕事と生活を両立しやすい環境づくり」の割合が最も高く、次いで「職場環境の整備による男女とも働きやすい職場づくり」となっている。

(%)



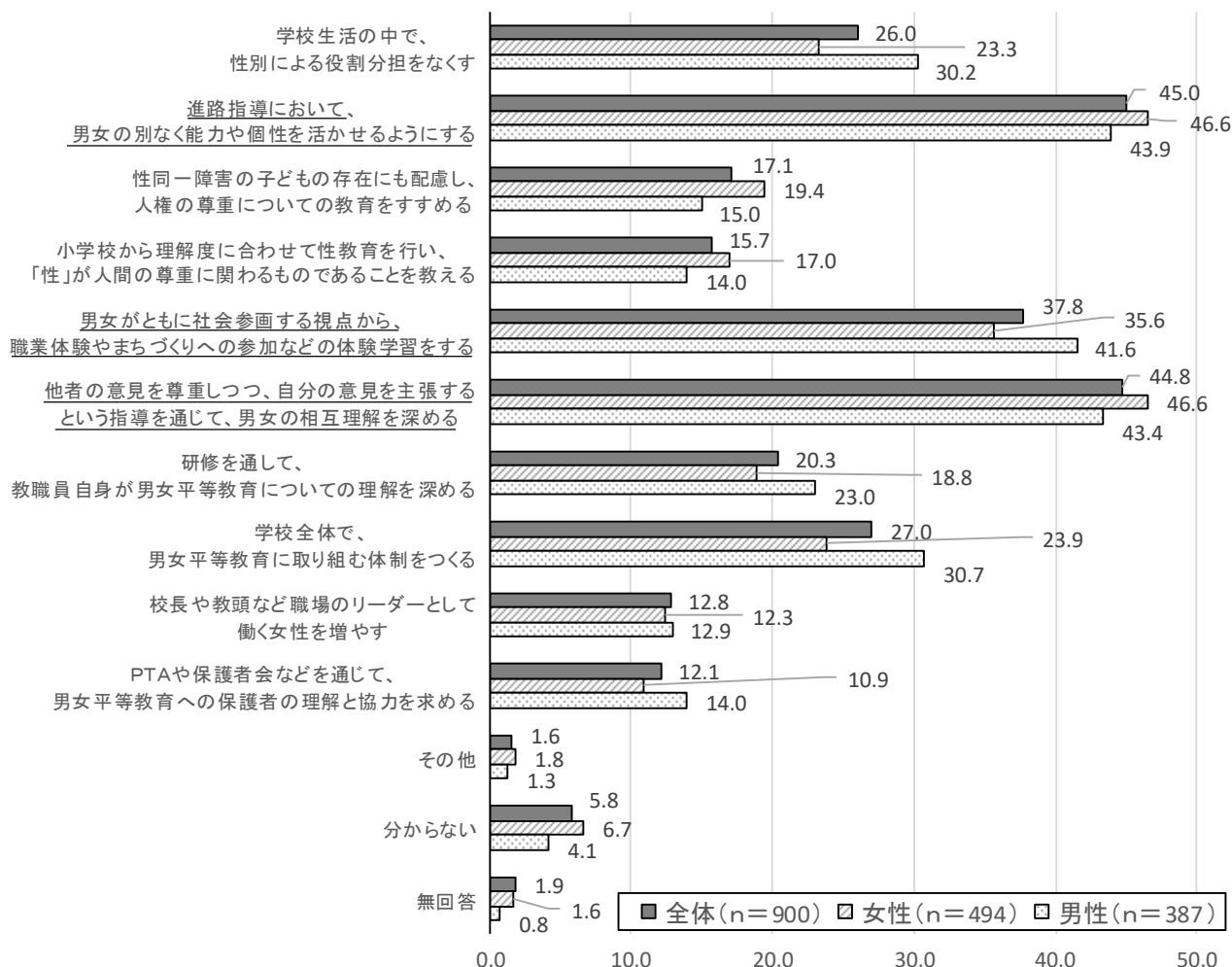
[参考] 前回 (H24) 調査との比較

R1調査						
	全体	割合	女性	割合	男性	割合
1	子育て・介護支援による仕事と生活を両立しやすい環境づくり	61.1%	子育て・介護支援による仕事と生活を両立しやすい環境づくり	68.0%	子育て・介護支援による仕事と生活を両立しやすい環境づくり	53.2%
2	職場環境の整備による男女とも働きやすい職場づくり	46.4%	職場環境の整備による男女とも働きやすい職場づくり	46.4%	職場環境の整備による男女とも働きやすい職場づくり	47.8%
3	女性の就業機会の確保、女性の職業能力開発の機会の充実	30.1%	女性の就業機会の確保、女性の職業能力開発の機会の充実	29.4%	女性の就業機会の確保、女性の職業能力開発の機会の充実	31.8%
H24調査						
	全体	割合	女性	割合	男性	割合
1	子育て・介護支援による仕事と生活を両立しやすい環境づくり	56.0%	子育て・介護支援による仕事と生活を両立しやすい環境づくり	62.6%	子育て・介護支援による仕事と生活を両立しやすい環境づくり	48.2%
2	職場環境の整備による男女とも働きやすい職場づくり	46.7%	職場環境の整備による男女とも働きやすい職場づくり	52.0%	職場環境の整備による男女とも働きやすい職場づくり	40.5%
3	企業や団体トップへの職場における男女共同参画推進の働きかけ	28.0%	女性の就業機会の確保、女性の職業能力開発の機会の充実	31.2%	企業や団体トップへの職場における男女共同参画推進の働きかけ	34.5%

(3) 男女平等教育を進めるために学校に期待すること（報告書 38 ページ：問 7）

「進路指導において、男女の別なく能力や個性を活かせるようにする」と、「他者の意見を尊重しつつ、自分の意見を主張するという指導を通じて、男女の相互理解を深める」が同程度で4割を超え高い割合となっており、次いで「男女がともに社会参画する視点から、職業体験やまちづくりへの参加などの体験学習をする」となっている。

(%)



[参考] 前回(H24)調査との比較

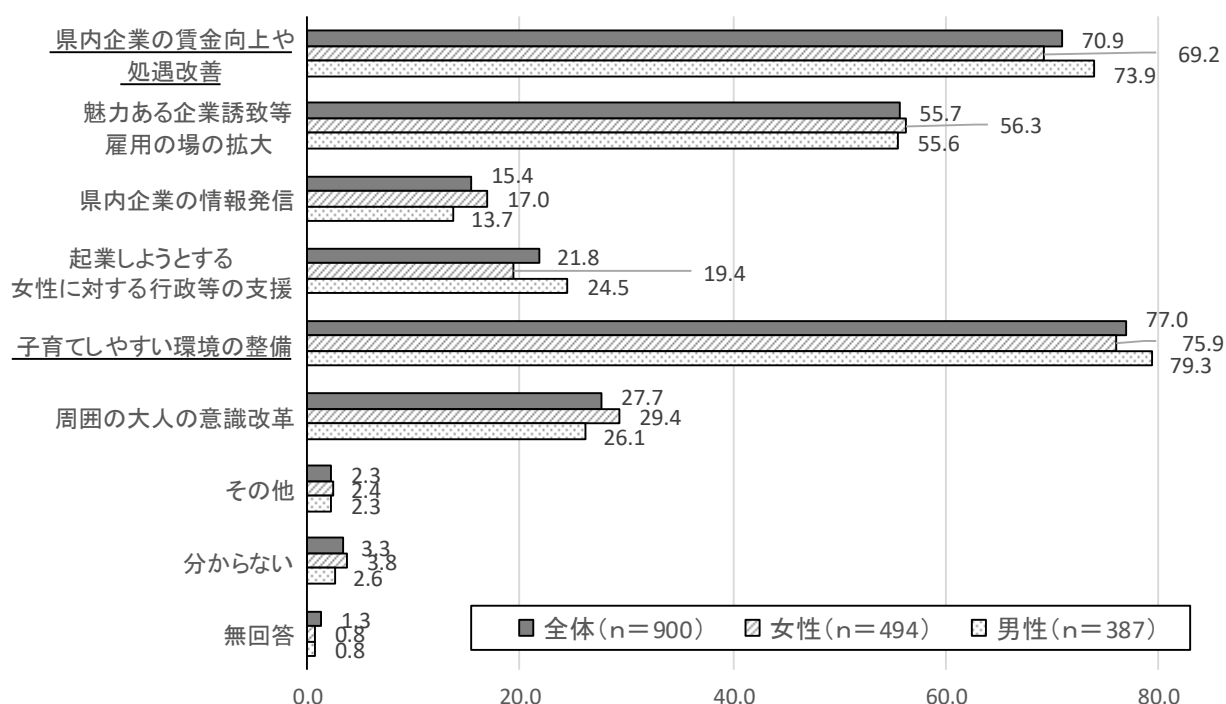
R1調査						
	全体	割合	女性	割合	男性	割合
1	進路指導において、男女の別なく能力や個性を活かせるようにする	45.0%	進路指導において、男女の別なく能力や個性を活かせるようにする	46.6%	進路指導において、男女の別なく能力や個性を活かせるようにする	43.9%
2	他者の意見を尊重しつつ、自分の意見を主張するという指導を通じて、男女の相互理解を深める	44.8%	他者の意見を尊重しつつ、自分の意見を主張するという指導を通じて、男女の相互理解を深める	46.6%	他者の意見を尊重しつつ、自分の意見を主張するという指導を通じて、男女の相互理解を深める	43.4%
3	男女がともに社会参画する視点から、職場体験やまちづくりへの参加などの体験学習をする	37.8%	男女がともに社会参画する視点から、職場体験やまちづくりへの参加などの体験学習をする	35.6%	男女がともに社会参画する視点から、職場体験やまちづくりへの参加などの体験学習をする	41.6%
H24調査						
	全体	割合	女性	割合	男性	割合
1	他者の意見を尊重しつつ、自分の意見を主張するという指導を通じて、男女の相互理解を深める	41.0%	他者の意見を尊重しつつ、自分の意見を主張するという指導を通じて、男女の相互理解を深める	43.6%	進路指導において、男女の別なく能力や個性を活かせるようにする	39.3%
2	進路指導において、男女の別なく能力や個性を活かせるようにする	39.2%	進路指導において、男女の別なく能力や個性を活かせるようにする	39.5%	他者の意見を尊重しつつ、自分の意見を主張するという指導を通じて、男女の相互理解を深める	37.8%
3	男女がともに社会参画する視点から、職場体験やまちづくりへの参加などの体験学習をする	33.2%	男女がともに社会参画する視点から、職場体験やまちづくりへの参加などの体験学習をする	32.8%	男女がともに社会参画する視点から、職場体験やまちづくりへの参加などの体験学習をする	33.8%

(4) 県内に女性が定着し、活躍するために必要なこと（報告書 45 ページ：問 11）

＜令和元年度新規調査項目＞

「子育てしやすい環境の整備」の割合が最も高く、次いで「県内企業の賃金向上や処遇改善」となっている。

(%)

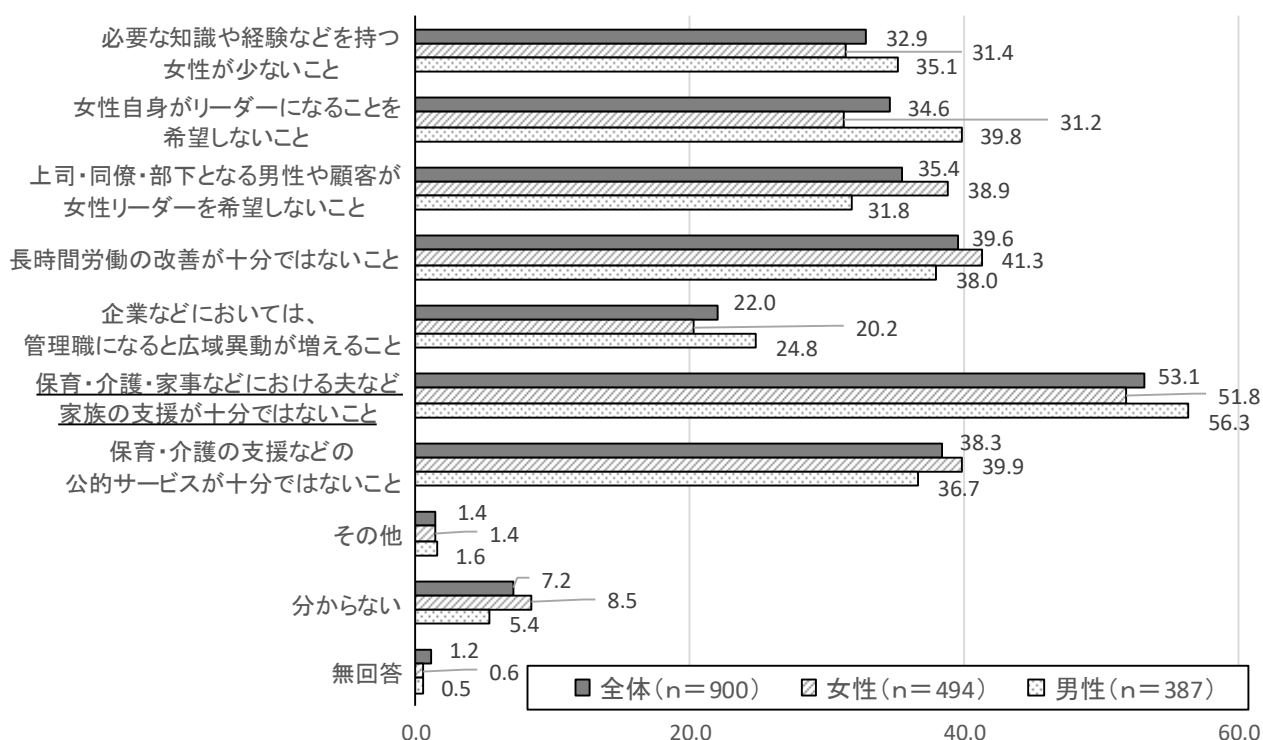


(5) 各分野で女性リーダーを増やすために障害となること（報告書 47 ページ：問 13）

＜令和元年度新規調査項目＞

「保育・介護・家事などにおける夫など家族の支援が十分ではないこと」の割合が最も高く、家庭内の協力が不十分と考えている人が多い。

(%)

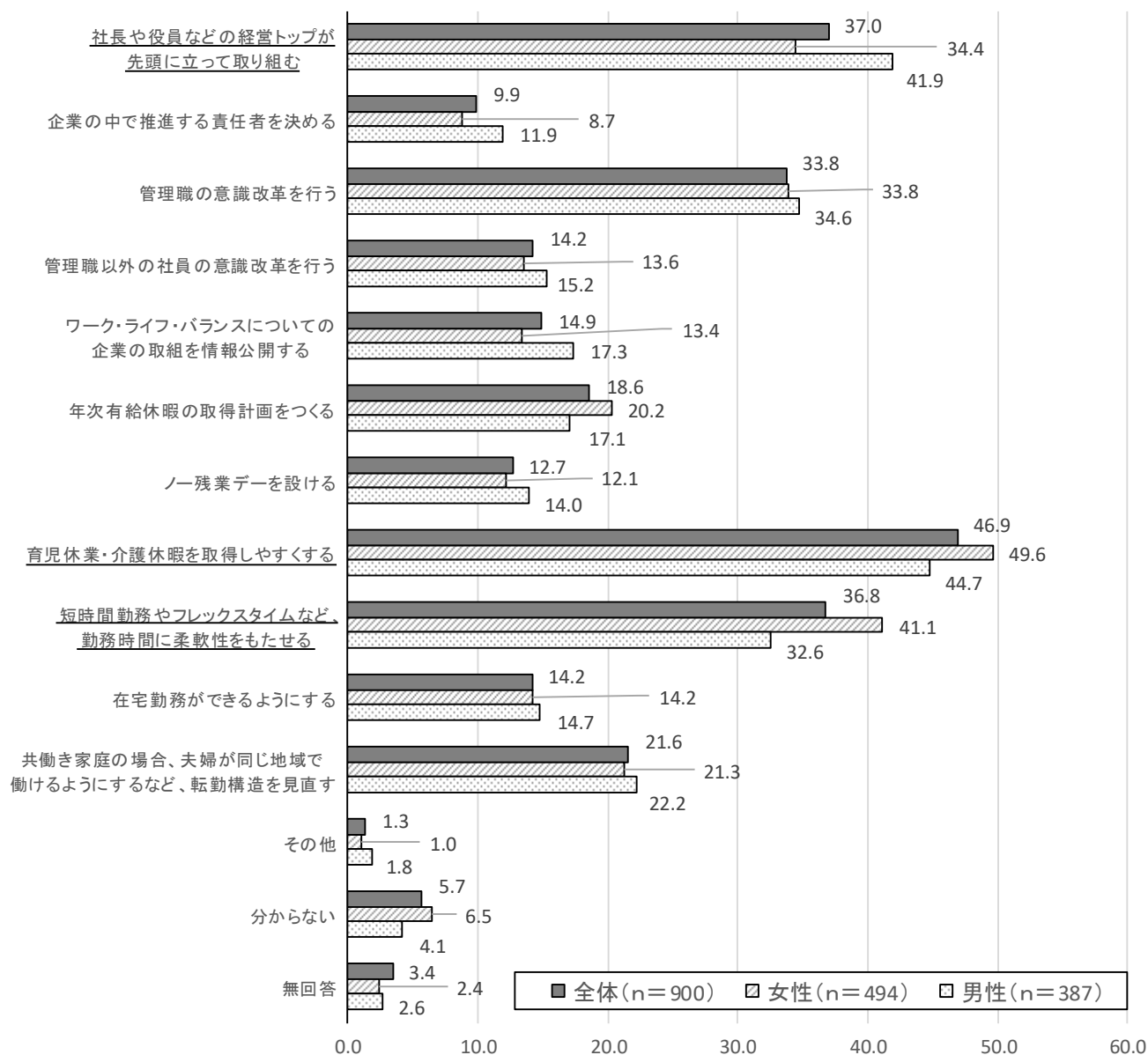


(6) ワーク・ライフ・バランスを実現するため、企業に必要な取組（報告書 49 ページ：問 15）

＜令和元年度新規調査項目＞

「育児休業・介護休暇を取得しやすくする」の割合が最も高く、次いで「社長や役員などの経営トップが先頭に立って取り組む」、「短時間勤務やフレックスタイムなど、勤務時間に柔軟性をもたせる」の順となっている。

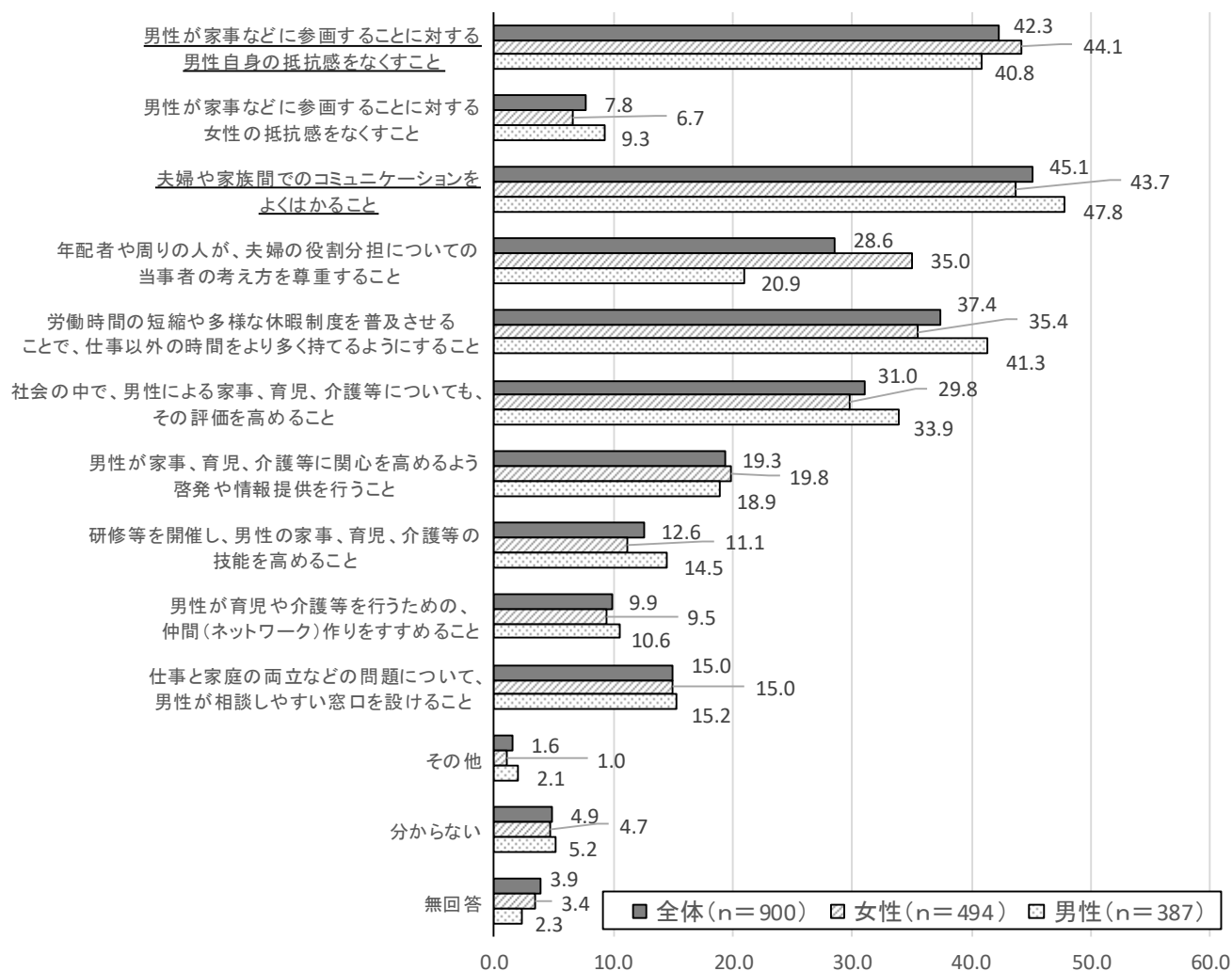
(%)



(7) 男性の家事等の参画を進めていくために必要なこと（報告書 55 ページ：問 18）

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」の割合が最も高く、次いで「男性が家事などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」となっている。

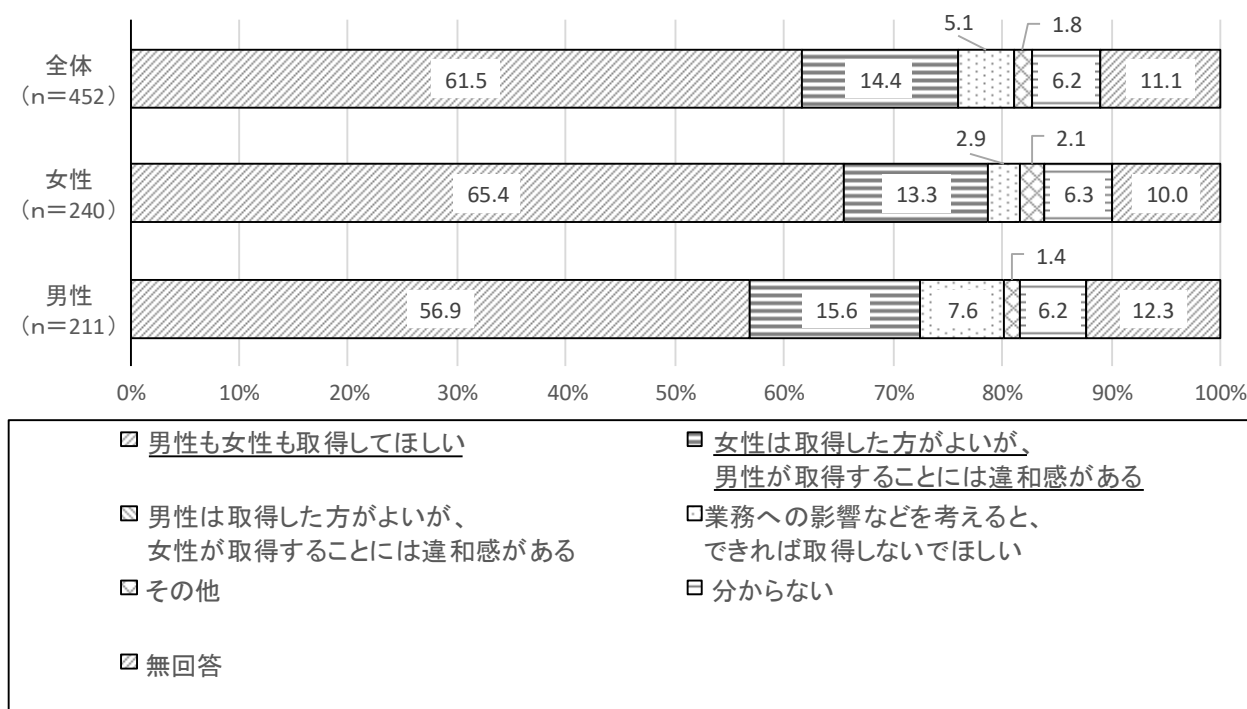
(%)



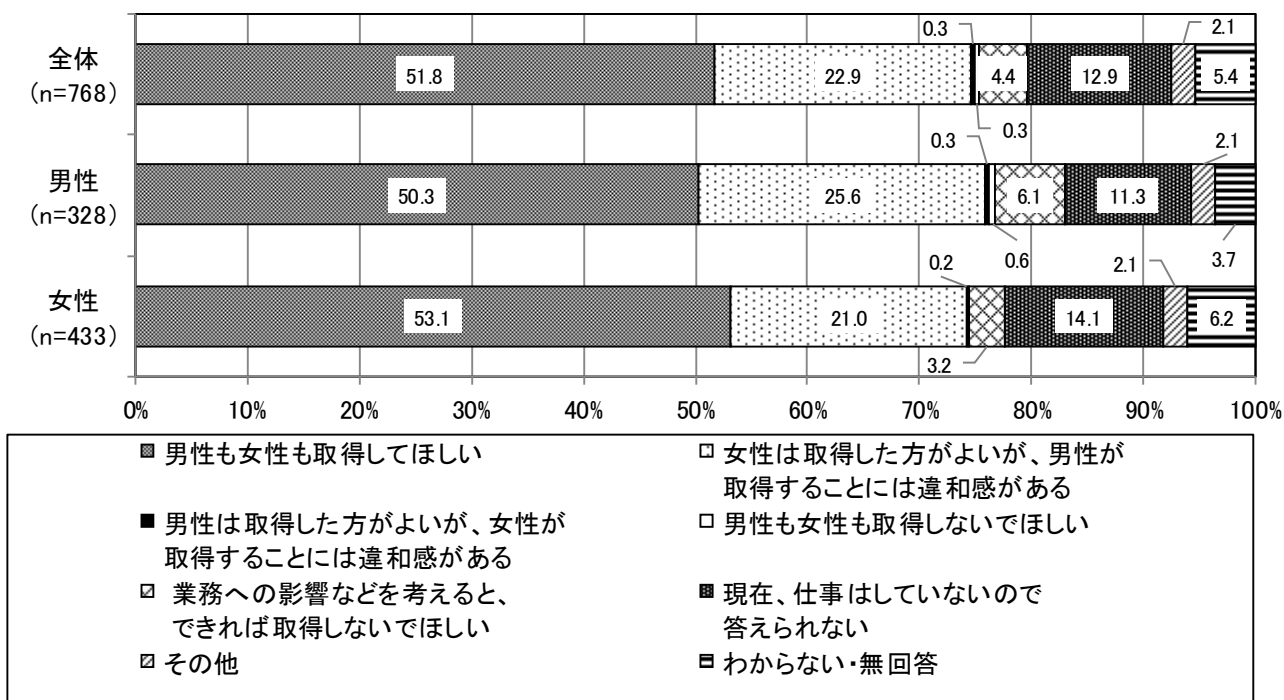
[参考] 前回 (H24) 調査との比較

R1調査						
	全体	割合	女性	割合	男性	割合
1	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	45.1%	男性が家事などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	44.1%	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	47.8%
2	男性が家事などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	42.3%	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	43.7%	労働時間の短縮や多様な休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	41.3%
3	労働時間の短縮や多様な休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	37.4%	労働時間の短縮や多様な休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	35.4%	男性が家事などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	40.8%
H24調査						
	全体	割合	女性	割合	男性	割合
1	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	62.8%	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	68.4%	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	55.5%
2	男性が家事などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	53.6%	男性が家事などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	57.7%	男性が家事などに参画することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	48.2%
3	社会の中で、男性による家事、育児、介護等についても、その評価を高めること	45.8%	社会の中で、男性による家事、育児、介護等についても、その評価を高めること	51.3%	労働時間の短縮や多様な休暇制度を普及させることで、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	46.3%

(8) 育児休業の取得について（報告書 52 ページ：問 17）※現在職業をもっている方のみ回答
「男性も女性も取得してほしい」の割合が最も高く、次いで「女性も取得した方がよいが、男性が取得することには違和感がある」となっている。
「男性も取得した方がよいが、女性が取得することには違和感がある」と回答した人はいない。



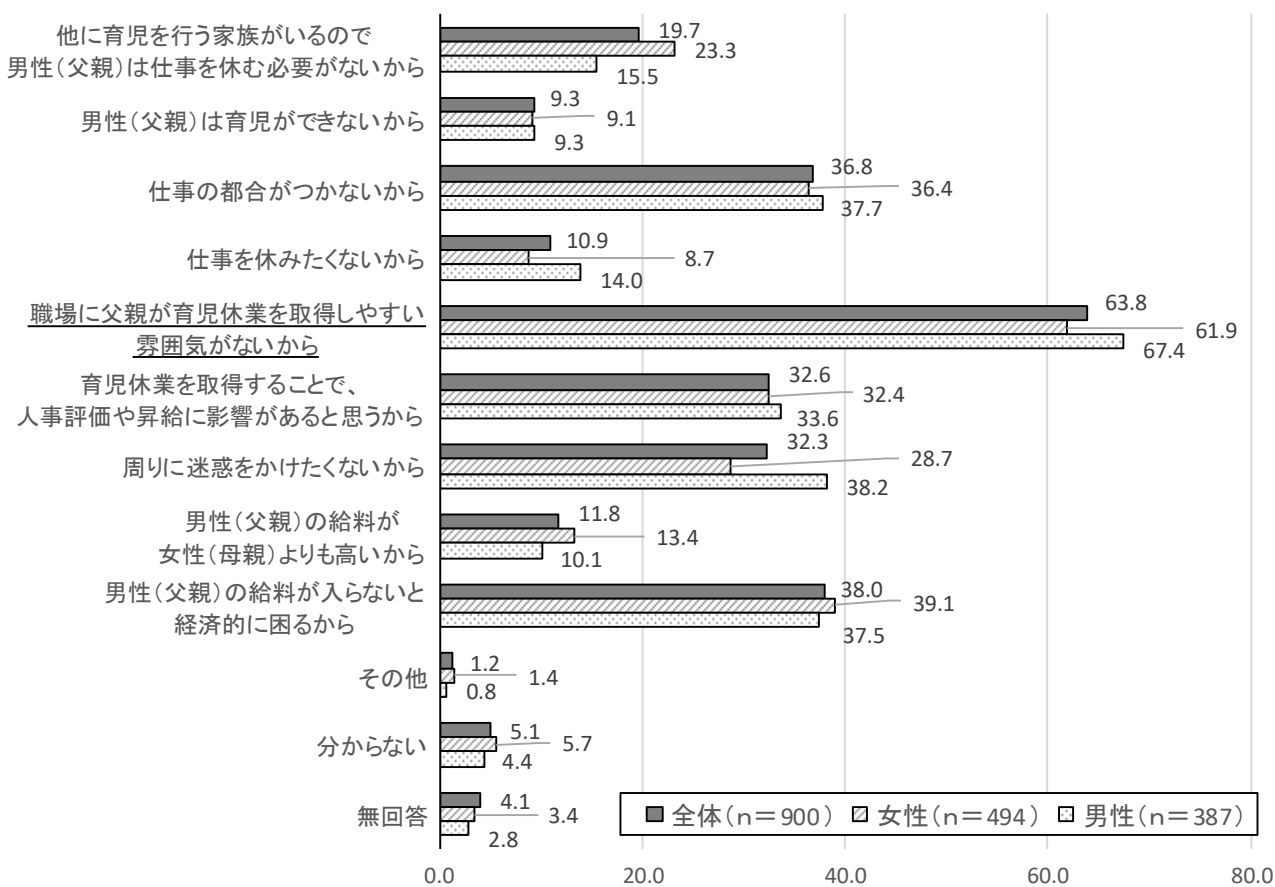
[参考] 前回(H24)調査の状況



(9) 男性の育児休業取得が進まない理由(報告書 56 ページ: 問 19)

「職場に父親が育児休業を取得しやすい雰囲気がないから」の割合が男女ともに6割を超え最も高く、職場の雰囲気に問題を感じている人が多い。

(%)



[参考] 前回(H24)調査との比較

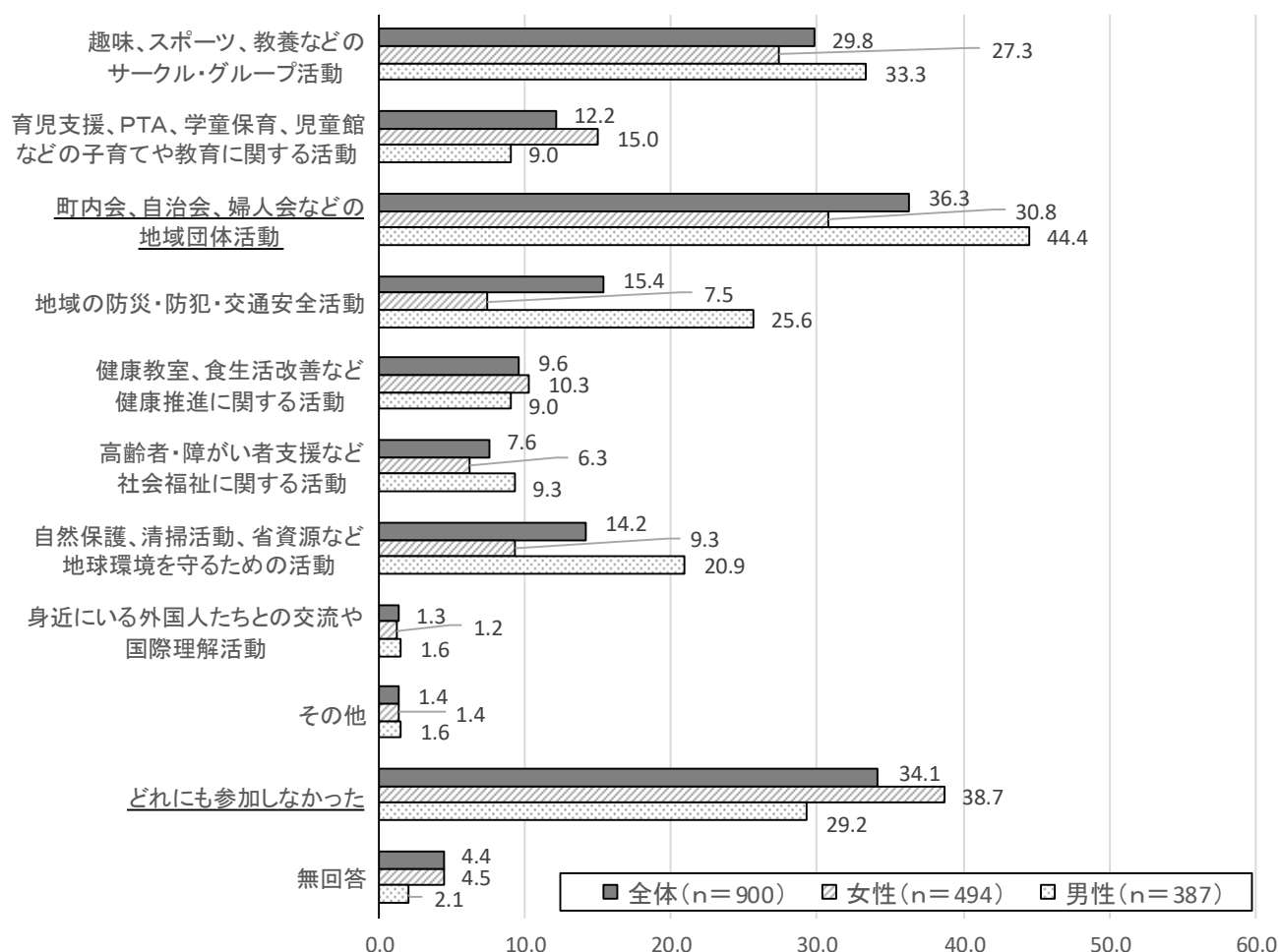
R1調査						
	全体	割合	女性	割合	男性	割合
1	職場に父親が育児休業を取得しやすい雰囲気がないから	63.8%	職場に父親が育児休業を取得しやすい雰囲気がないから	61.9%	職場に父親が育児休業を取得しやすい雰囲気がないから	67.4%
2	男性(父親)の給料が入らないと経済的に困るから	38.0%	男性(父親)の給料が入らないと経済的に困るから	39.1%	周りに迷惑をかけたくないから	38.2%
3	仕事の都合がつかないから	36.8%	仕事の都合がつかないから	36.4%	仕事の都合がつかないから	37.7%
H24調査						
	全体	割合	女性	割合	男性	割合
1	職場に父親が育児休業を取得しやすい雰囲気がないから	67.7%	職場に父親が育児休業を取得しやすい雰囲気がないから	68.8%	職場に父親が育児休業を取得しやすい雰囲気がないから	66.8%
2	仕事の都合がつかないから	44.5%	男性(父親)の給料が入らないと経済的に困るから	46.7%	仕事の都合がつかないから	49.7%
3	男性(父親)の給料が入らないと経済的に困るから	43.6%	仕事の都合がつかないから	41.1%	男性(父親)の給料が入らないと経済的に困るから	39.9%

(10) 最近参加した地域活動（報告書 59 ページ：問 22）

「町内会、自治会、婦人会などの地域団体活動」の割合が最も高く、次いで「どれにも参加しなかった」となっており、特に女性では、「どれにも参加しなかった」の割合が最も高い。

「町内会、自治会、婦人会などの地域団体活動」、「地域の防災・防犯・交通安全活動」、「自然保護、清掃活動、省資源など地球環境を守るための活動」では、男女の割合に大きな差が生じている。

(%)



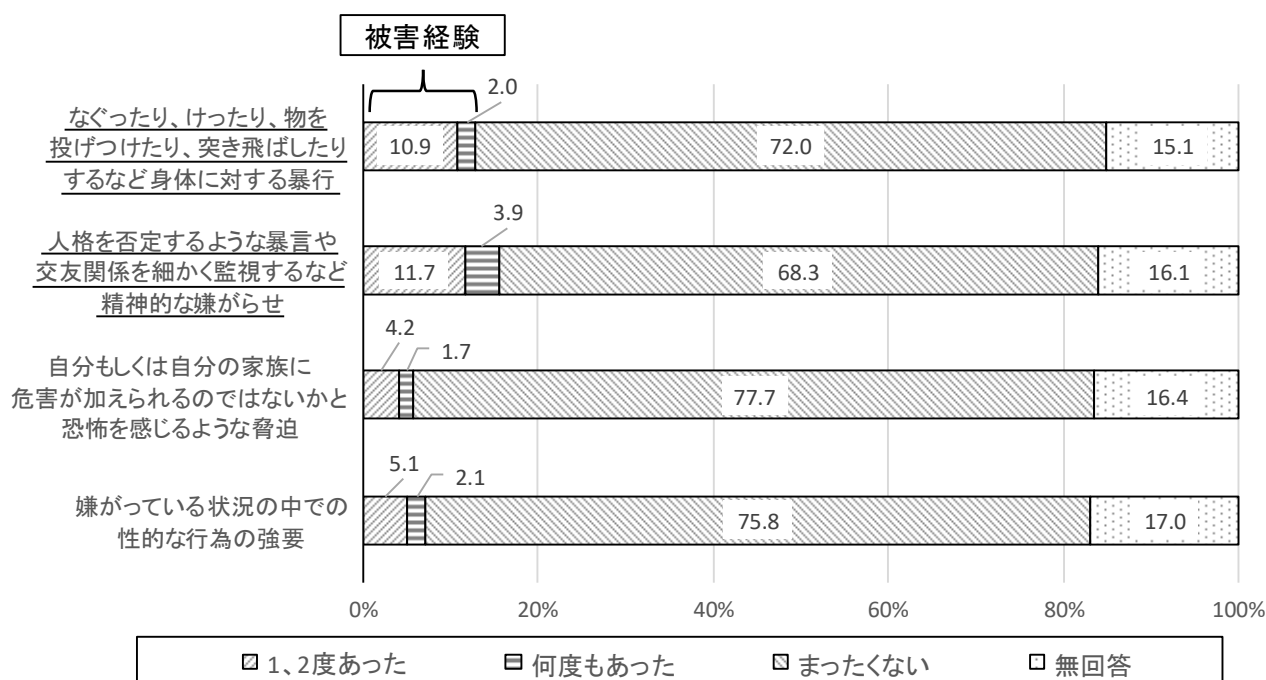
[参考] 前回(H24)調査との比較

R1調査						
	全体	割合	女性	割合	男性	割合
1	町内会、自治会、婦人会などの地域団体活動	36.3%	どれにも参加しなかった	38.7%	町内会、自治会、婦人会などの地域団体活動	44.4%
2	どれにも参加しなかった	34.1%	町内会、自治会、婦人会などの地域団体活動	30.8%	趣味、スポーツ、教養などのサークル・グループ活動	33.3%
3	趣味、スポーツ、教養などのサークル・グループ活動	29.8%	趣味、スポーツ、教養などのサークル・グループ活動	27.3%	どれにも参加しなかった	29.2%
H24調査						
	全体	割合	女性	割合	男性	割合
1	町内会、自治会、婦人会などの地域団体活動	41.1%	どれにも参加しなかった	40.6%	町内会、自治会、婦人会などの地域団体活動	47.0%
2	どれにも参加しなかった	36.2%	町内会、自治会、婦人会などの地域団体活動	36.7%	どれにも参加しなかった	30.2%
3	趣味、スポーツ、教養などのサークル・グループ活動	26.4%	趣味、スポーツ、教養などのサークル・グループ活動	26.1%	趣味、スポーツ、教養などのサークル・グループ活動	27.1%

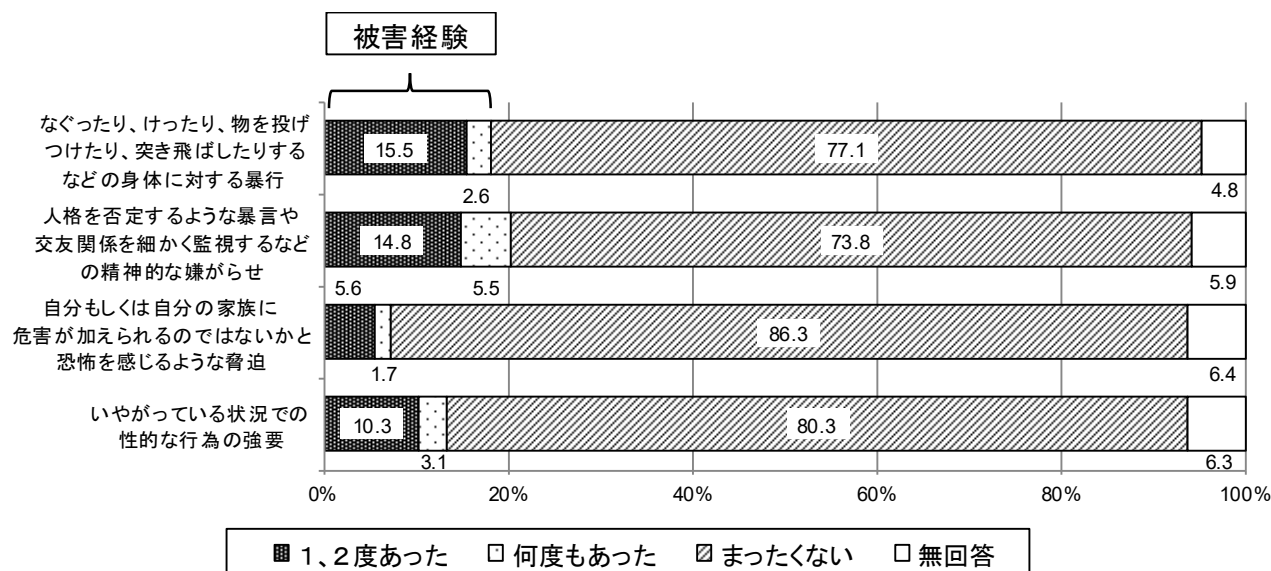
(11) DV（ドメスティック・バイオレンス）の被害経験（報告書 69 ページ：問 25）

各項目とも「まったくない」の割合が最も高い。

「1、2度あった」と「何度もあった」の被害経験を合計した割合が最も高いのは、「人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなど精神的な嫌がらせ」で、次いで「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなど身体に対する暴行」となっている。



[参考] 前回(H24)調査の状況



令和元年度秋田県男女の意識と生活実態調査報告書（令和２年３月）概要

秋田県あきた未来創造部 次世代・女性活躍支援課

T E L : 018-860-1555 F A X : 018-860-3895